

令和8年4月公表「特許・実用新案審査基準」改訂案の要点と実務への影響

「除くクレーム」と新規事項：形式から実質へ



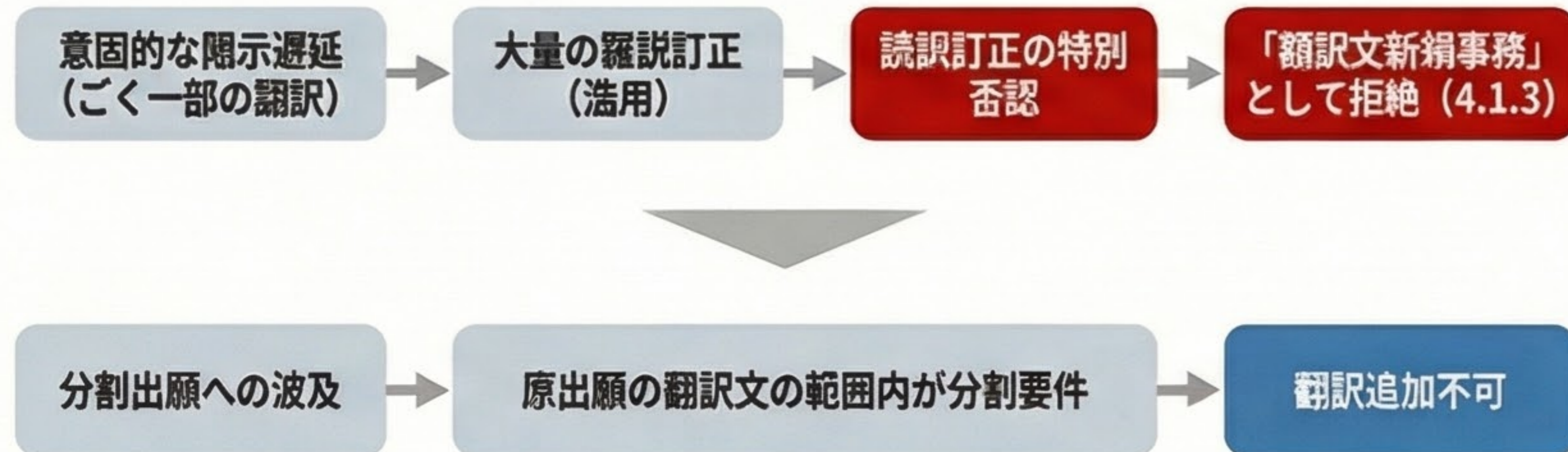
! 出願人の説明負担と「悪魔の証明」の懸念
除外が「割底認定されないこと」の立証が求められ、立証責任が適嗣になるリスク

進歩性判断：阻害要因の「程度の差異」を考慮



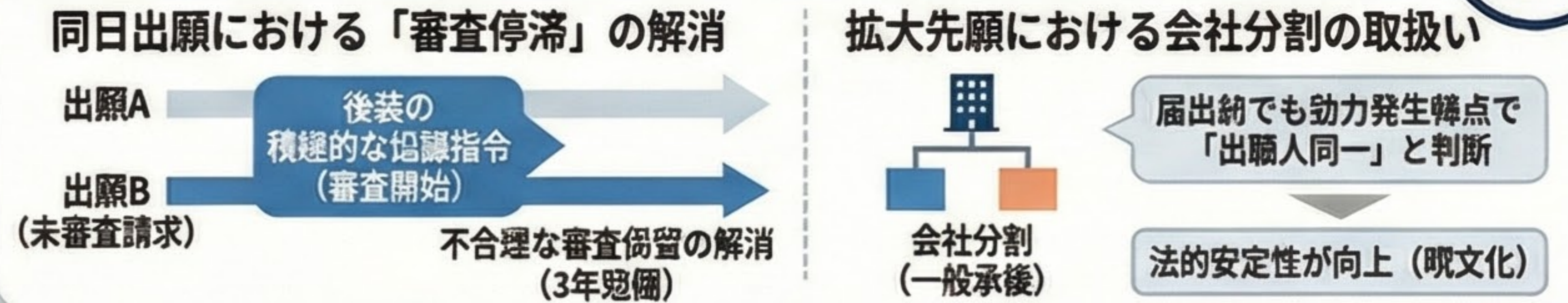
! 「想定し得る課題」の導入と事後分析のリスク
明示課題以外も考慮。審査官の「後知東」による主観的認定を助長する危険性。客観的証拠が重要。

外国語書面出願：制度濫用の厳格な防止



! 「善意の訳抜け」保護の必要性
悪意と誠実の境界線が曖昧。軽微な訳抜けに対する過剰適用因避が課題。

手続の迅速化・明確化



改訂に伴う実務上の論点と意見案の整理

項目	改訂の方向性	実務案が求めるべき「働止め」
除外クレーム	実質的判断への回帰	多様な技術分野での裏例拡充（ハンドブックへの掲載）
進歩性判断	程度の差異の総合評価	阻害要因の強制を判断する客観的推測の提示
想定し得る課題	当業者の観点の導入	審査官による客観的証拠（同類法術文献等）の提示義務
濫用防止認定	厳格な新規事項判断	善意の軽微な訳抜けに対する適用除外の明記